

ジャーナリズム・政策研究所
講義要綱（2021年度）

【読む・書く・話す・理解し考える

——新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング】

(火曜日・3時限講義)

真 下 聡

本講座は就活対策・就活準備を念頭に、新聞記事などを素材に「読む・書く・話す・理解し考える」力を養う具体的なトレーニングを行います。

今年は前後期とも行います。メインのターゲットは大学2年・3年生のみなさんですが、就活中の4年生から新入学の1年生の方までどなたでも歓迎します（前期のみ、後期のみもOKです）。マスコミ志望者はもちろん、そうでない方もこれから生き抜いていく上で必ず役に立つ内容です。

実際に行うトレーニングは、現時点では以下のものを考えています。

1. 新聞記事素材にニュース記事の読み方のコツを学びます。
2. ニュース記事を短く「縮約」します。300字や150字を目標にしていきます。
3. 記事を題材にしたり共通のテーマを設けたりして、自分で考え1分間でスピーチします。
4. 文章の構造を意識しながら書くことを学びます。

就活でオンライン面接がありうることも念頭に、本講座では大学での対面の授業とオンラインでの授業を織り交ぜながら実施します。16回の講座を対面とオンラインでどのように配分するかは、講座開始後、受講する方の学年構成などを見ながら決定します（初回は対面で行います）。

真下 聡（まっか・あきら） 朝日新聞ジャーナリスト学校ディレクター

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。取材記者は鹿児島での3年のみで、西部本社・東京本社で新聞編集者を20年以上つとめました。2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに関わり、デジタル編集長として全社のデジタル発信にも取り組みました。2015年5月からの教育総合本部では、大学1年生向けの作文講座で3年間に1500本以上を読み指導。就活生向けセミナーなどでも3年間に約200本のエントリーシート添削や面接・グループディスカッションを指導しました。現在所属する朝日新聞ジャーナリスト学校では、主に社外の学生、社会人、NPO、シニアなど幅広い方々へ、新聞の読み方や文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについて指導しています。

【編集の現場から——出版社の舞台裏】

(火曜日・4時限講義)

下平尾直

読書や本が好きな方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマ化されるような華やかなギョーカイ？ それとも「出版不況」と呼ばれるように、暗くて地道で大変な仕事？ この講座では、本をつくって読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、各界で活躍中のゲストにお招きしたり、本の帯や出版広告を作成したりしながら、具体的な本づくり＝編集のあれこれを学びます。

*講義内容は予告なく変更する場合があります。

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014年に(株)共和国という出版社を創業。この講座も8年目になりました。2021年3月末日現在、藤原辰史『[決定版] ナチスのキッチン』(第1回河合隼雄学芸賞)、山家悠平『遊廓のストライキ』、須藤健太郎『評伝ジャン・ユスターシュ』(第11回表象文化論学会賞)、森元斎『国道3号線』、片岡一郎『活動写真弁史』など55点を刊行。編著に武田麟太郎『蔓延する東京』など、共著に『メディアの本分』(彩流社、2016)などがある。

【新商品開発をするということ】

(水曜日・3時限講義)

坂本 律行

企業は新しい商品やサービスを作り出すために、調査を行うことによって市場や消費者の情報を収集し、分析し、商品コンセプトを練り上げ、新しい商品・サービスを市場に投入しています。

消費者の手元に商品・サービスを届けるまでのあらゆるステップがマーケティングと言えます。

この講座では、受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、自身がそうした商品を販売しなければならない営業マンの立場であったならなど講義の中で考えてもらおうと思っています。講義の間だけ企業競争を生きてもらうつもりです。

そうするためにはその企業の経営資源を理解し、マーケティングの特徴や企業を取り巻く社会環境や価値観の変化が企業に与えた影響を簡潔に明解にまとめる必要があるかと思えます。企業の商品開発の担当者の視点、企業を取り巻く環境変化の視点、COVID-19が企業に及ぼした視点を盛り込んで、見てきたようにお話していきますので大学生のみならず中高年の期待も裏切らないはずですよ。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきた。1982年から通算するとマーケティングリサーチ・分析業務経験は24年。消費財メーカーでのプロダクトマーケティング経験3年／販売管理、営業企画経験が5年。株式会社坂本総合研究所代表。

【なぜ週刊文春はスクープを連発できるのか

——99年目の雑誌ジャーナリズム入門】

(水曜日・4時限講義 ※後期のみ)

常井健一

最近、「文春砲」という言葉をよく聞きますか？

大手メディアが名を連ねる「記者クラブ」に属さず、中央官庁に出入りできる入館証も持たずして、各界のリーダーらから最も警戒されている約50人の野武士集団が、ジャーナリズムの世界で異彩を放っています。

服装・髪型自由、性別・学歴・経験不問——。採用基準があってないような週刊文春編集部に集まったニュースの職人たちは、いかに全国紙を凌ぐ取材力を育み、どうして世の中を突き動かす影響力を持ちえたのか。

この授業では、「週刊文春」に加え、ライバル誌「週刊新潮」も含めたあらゆる雑誌に寄稿し、著作を出版してきた講師が、様々な角度から「週刊文春の強み」をみなさんと分析しつつ、2022年で100年を迎える〈週刊誌〉というメディアの面白さと可能性に迫ります。

出版社やスポーツ新聞社、ネットメディアへの就職・転職を検討中の方はもちろん、「正社員」という雇用形態や業界の枠にとらわれない働き方、あるいは、独自の表現方法にこだわった仕事を目指す方の受講をおすすめします。

◆主なトピック

- 「雑誌ジャーナリズム」の歴史と特徴
- 「週刊文春」はなぜ強いのか
- 「週刊文春」と「週刊新潮」を読み比べよう
- 職業としての「雑誌記者」
- ライバル「週刊新潮」の研究
- 雑誌メディアのDXと未来予想図

◆主要参考図書/参考映画

- 『2016年の週刊文春』（柳澤健、光文社、2020年）
- 『鬼才 伝説の編集人 齋藤十一』（森功、幻冬舎、2021年）
- 『文春砲 スクープはいかにして生まれるのか?』（週刊文春編集部、角川新書、2017年）
- 『ブンヤ暮らし三十六年 回想の朝日新聞』（永栄潔、草思社、2015年）
- 「マイ・バック・ページ」（山下敦弘監督、妻夫木聡主演、2011年）
- 「SCOOP!」（大根仁監督、福山雅治主演、2016年）
- 「凶悪」（白石和彌監督、山田孝之主演、2013年）

常井健一（とこい・けんいち）

ノンフィクションライター。1979年、茨城県生まれ。大学時代からネットメディアの立ち上げに携わり、ライブドアを経て、朝日新聞出版に入社。「AERA」編集部で勤務後、2012年末に独立。17年、「小泉純一郎独白録」（月刊文藝春秋）で第23回編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞。20年、『無敗の男 中村喜四郎全告白』（文藝春秋）が大宅壮一賞、本田靖春賞、城山三郎賞の最終候補作に。主な取材テーマは、政治家とその家族。

【コラムを書きながら考えたこと】

(木曜日・2時限講義)

桑原 聡

産経新聞に隔週で時事コラム「モンテーニュとの対話」を書いています。本講座では私の書いたコラムを教材に、コラム執筆の意図や苦勞を語りながら、現代社会とメディアが抱える問題について、受講者の方々と意見を交換しながら考えていきたいと思います。

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、現在は隔週で大型コラム「モンテーニュとの対話」を連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひざにパパが読む絵本50選』『わが子と読みたい日本の絵本50選』(ともに産経新聞出版)、「〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ」(水声社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

【メディアリテラシー向上講座～事例で探るメディアのウソとホント】

(木曜日・3時限講義 ※前期のみ)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、この男性は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」

バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信される情報に囲まれています。

これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。

講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

【憲法と司法・報道】

(金曜日・3時限講義)

竹田 昌弘

主権者の国民が制定者の憲法は、個人の自由や権利を守るため、政治権力を規制し、暴走しないよう、たがをはめているという考え方が立憲主義です。憲法がその立憲主義の役割を十分に果たすためには、憲法によって法令の違憲審査権を持つ司法と「表現の自由」に基づき、政治権力を日々監視する報道がしっかりと機能している必要があると考えています。司法と報道は、憲法を支える車の両輪のようなものと言えるかもしれません。

そこでまず憲法と立憲主義、違憲審査権、表現の自由とは、どういうものかを歴史や判例などを含めて学び、次いで司法と報道の具体的な役割、現状と課題を同様に歴史や判例なども踏まえて、それぞれ考察していく講義を考えています。全体が三つに分かれ、第1ステージ憲法、第2ステージ司法、第3ステージ報道といったイメージです。

講義では、各回資料を配布しますが、参考書として樋口陽一東大・東北大名誉教授の『六訂憲法入門』（勁草書房）をお勧めします。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。社会部次長、司法キャップなどを経て編集委員兼論説委員。つくば国際大非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）も務めた。著書『知る、考える裁判員制度』、編・共著『憲法ルネサンス』『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』など。

【テレドキュメンタリーはこうして作られる

～制作現場の悪戦苦闘を共有する～】

(金曜日・4時限講義)

新山 賢治

不透明な時代、不測の事態の連続、映像はどのようにして時代をせき止めて行けばいいのか。リモートの良さを生かすだけ最前線で悪戦苦闘する現場の制作者を招待しながら、テレドキュメンタリーの最前線は何を考えどう取り組んでいるのか、共に併走します。また、温故知新、過去の多彩なドキュメンタリーをふんだんに鑑賞しながら、様々な映像伝達手段が飛躍的に進化する中で、テレドキュメンタリーは何を目指して行けばいいのか、自由な議論を交えて考えていきます。

ぜひ、のぞいてみてください。

新山 賢治 (しんやま・けんじ)

1953年山口県生まれ 1977年日本放送協会近畿本部報道部入社。その後、報道局ディレクター、NHKスペシャルプロデューサーを経て、制作局長、理事、NHKエンタープライズ制作本部プロデューサー、現在は企画舎 GRIT 代表。2017年度「NHKスペシャル インパール 戦慄の記録」で芸術祭優秀賞、2018年度「劇場版 8K で解き明かすからだの中の宇宙」で科学映像技術祭内閣総理大臣賞を受賞

2021年度 ジャーナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00～14:20				
2 時限目 14:50～16:10			コラムを書きながら考えたこと (桑原聡)	
3 時限目 16:30～17:50	読む・書く・話す・理解し考える ——新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング (真下聡)	新商品開発をするということ (坂本律行)	※前期のみ メディアリテラシー向上講座～ 実例で探るメディアのウソとホント (玉手義朗)	憲法と司法・報道 (竹田昌弘)
4 時限目 18:00～19:20	編集の現場から——出版社の舞台裏 (下平尾直)	※後期のみ なぜ週刊文春はスクープを連発できるのか ——99年目の雑誌ジャーナリズム入門 (常井健一)		テレドキュメンタリーはこうして作られる～制作現場の悪戦苦闘を共有する～ (新山賢治)

【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制です（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）。

前期・・・5月18日（火）～7月16日（金）

後期・・・9月21日（火）～11月26日（金）

※**6月15日(火)～18日(金)、10月26日(火)～29日(金)**は休講です。

【開講方式】

学生は対面講座、一般受講者はオンラインまたはオンデマンドにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはZOOMでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、wifi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。

*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/mass-communication/lecture-guidance.html>



駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所 令和3(2021)年度 講義カレンダー(全16回)

前期:5月18日～7月16日

火	水	木	金
5月18日	5月19日	5月20日	5月21日
火①	水①	木①	金①
5月25日	5月26日	5月27日	5月28日
火②	水②	木②	金②
6月1日	6月2日	6月3日	6月4日
火③	水③	木③	金③
6月8日	6月9日	6月10日	6月11日
火④	水④	木④	金④
6月15日	6月16日	6月17日	6月18日
6月22日	6月23日	6月24日	6月25日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
6月29日	6月30日	7月1日	7月2日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
7月6日	7月7日	7月8日	7月9日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
7月13日	7月14日	7月15日	7月16日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

後期:9月21日～11月26日

火	水	木	金
9月21日	9月22日	9月23日	9月24日
火①	水①		金①
9月28日	9月29日	9月30日	10月1日
火②	火②	木①	金②
10月5日	10月6日	10月7日	10月8日
火③	水③	木②	金③
10月12日	10月13日	10月14日	10月15日
火④	水④	木③	
10月19日	10月20日	10月21日	10月22日
火⑤	水⑤	木④	金④
10月26日	10月27日	10月28日	10月29日
11月2日	11月3日	11月4日	11月5日
火⑥		木⑤	金⑤
11月9日	11月10日	11月11日	11月12日
火⑦	水⑥	木⑥	金⑥
11月16日	11月17日	11月18日	11月19日
火⑧	水⑦	木⑦	金⑦
11月23日	11月24日	11月25日	11月26日
	水⑧	木⑧	金⑧

※ 教場：深沢キャンパス講義室2-1（駒大生のみ）／オンライン（ZOOM）

※ 教場は、学会などの都合により変更になる場合がございます。

※ 休講の際の振替講義は原則として行いません。

※ 大学の授業実施カリキュラムに則った講義スケジュールのため、祝日の開講・平日の休講が、混在していることがあります。ご注意ください。

駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所事務局

TEL 03-6381-8901

受付時間：月～金10:00～12:30／13:30～17:00

※大学行事に則り変則的な休業日がございます